

分野	科目名	単位/時間数	時期	担当教員
基礎	心理学	1単位30時間	2年	非常勤講師

授業のねらい

私たちは有史以来「こころ」に関心を持ってきた、と言われる。その「こころ」が織りなす現象とはどんなものなのか、「こころ」はどのような行動を引き起こすのか。「心理学」が「行動の科学」とされるのはなぜなのか。このような疑問に迫りながら、自分の心の中を知り、他の人の心の動きに気付き、その心に寄り添えるようになること、をここでの心理学の目的としたい。

授業計画

第1回	心理学とは・心とは
第2回	心理学の歴史
第3回	感覚と知覚
第4回	記憶とそのメカニズム(様々な記憶)
第5回	思考・知能(知能指数)
第6回	言語とコミュニケーション
第7回	感情のメカニズム
第8回	欲求・葛藤・欲求不満
第9回	ストレス
第10回	性格とパーソナリティ(クレッチマー・フロイト)
第11回	対人関係
第12回	発達とは・発達段階(乳幼児期)
第13回	“ (児童 青年期)
第14回	“ (成人 老年期)
第15回	試験・まとめ

授業方法	講義
教科書	系統看護学講座 心理学 医学書院
評価方法	筆記試験又はレポート

分野	科目名	単位/時間数	時期	担当教員
基礎分野	教育学	1単位30時間	1年前期	非常勤講師

授業のねらい

- (1) 教育学の基本的なカテゴリーを整理する。
- (2) 「教育」、「ケア」、「多様性」、「共生社会」をキーワードに、教育の現状と課題を理解する。
- (3) 成人基礎教育の視点から看護・医療の専門職として自らの成長の意味を考える。
- (4) グループディスカッションで複数の人とコミュニケーションを取り、自分の考えを表現して相手に伝えることができる。

授業計画

第1回	授業オリエンテーション
第2回	社会の中の教育～家庭教育と学校教育
第3回	教育制度と発達保障の現状と課題－多様性・共生社会を視点に－
第4回	特別ニーズ教育・インクルーシブ教育
第5回	外国籍の子どもと教育
第6回	ジェンダーとダイバーシティと教育
第7回	生涯学習－学びのセーフティネットの構築
第8回	教育の担い手－専門性と専門職性
第9回	教育学レポート報告会の準備【参考文献の調査①】
第10回	教育学レポート報告会の準備【報告構成の検討②】
第11回	ケアと教育－人間の成長・発達と健康①
第12回	ケアと教育－人間の成長・発達と健康②
第13回	研究発表(発表・討論①)
第14回	研究発表(発表・討論②)
第15回	本授業のまとめ－多様性・共生社会をめざす教育の在り方－

- 授業方法
- (1). 本授業では、授業計画にある「教育」、「共生社会」、「多様性」、「共生社会」の概念について講義・文献・映像資料から学ぶ機会を設ける。
 - (2). 授業で取り上げたテーマから自らの関心や課題を見つけ、関連する文献を図書館で調べ集めて情報をまとめる機会を設ける。
 - (3). (1)(2)で学習したことをグループディスカッションを通して自らの考えを深める機会を設ける。
 - (4). すべての人が多様性を尊重しながら、教育を受けられ、生きることが出来る共生社会の在り方を考え、社会に求められていること、そして、自分自身ができることを考え報告する発表会を設ける。

教科書 授業時に資料を配布する。

評価方法	出席・授業後のミニレポート	30%
	報告会	30%
	最終レポート	40%

分野	科目名	単位/時間数	時期	担当教員
基礎	哲学	1単位30時間	1年前期	非常勤講師

授業のねらい

哲学は人間が自己と世界を総体的に把握しようとする知の営みの一つである。この授業では、人間として生きる上で関わる多様な物事を原理的に把握する思考へ向かうことによって、私たちが人間としてどのように生きるべきかを幅広く考えることをねらいとしている。

授業計画

- 第1回 1.哲学とは？～愛知
- 第2回 1.哲学とは？～言葉と論理
- 第3回 2.人間とは？～人間把握の三契機
- 第4回 2.人間とは？～人間関係論
- 第5回 3.社会とは？～社会の捉え方
- 第6回 3.社会とは？～現代社会の動向
- 第7回 4.自然とは？～自然の捉え方
- 第8回 4.自然とは？～自然との共生とは
- 第9回 5.情報とは？～図書館ガイダンス
- 第10回 5.情報とは？～情報リテラシー
- 第11回 6.生命とは？～人間的生命とは
- 第12回 6.生命とは？～人間的自由とは
- 第13回 7.哲学と看護倫理～生命倫理学とは
- 第14回 7.哲学と看護倫理～医療倫理と看護倫理
- 第15回 8.哲学とは

授業方法 講義

教科書 指定しない

評価方法 平常点30% 小テスト・レポート30% 読書・課題レポート20%

分野	科目名	単位/時間数	時期	担当教員
基礎	情報科学	1単位30時間	1年前期	非常勤講師

授業のねらい

今般、医療従事者は高度情報化社会のニーズに対応するため、また頻繁なコンピュータ利用に備えて、1)コンピュータの基本的な取り扱い、2)コンピュータネットワークの有効な利用方法、3)パソコンや携帯通信機器(スマホなど)に潜む危険性(プライバシーの漏洩や侵害、ネットウイルス、詐欺や盗難)の認識などを習得し、それを実践する能力が必要である。そこで本講義では理論・概念を中心とした講義、および実際にコンピュータを用いた各種テーマ別の実習を行う。また、看護教育の中で、データ処理やデータ解析に関する重要な手段としての基本統計学の講義・実習を合わせて行う。

第1回	情報科学概論 I	
第2回	コンピュータ基本操作	演習
第3回	ネットワークの功罪 I	
第4回	ネットワーク通信(メール、WWW、情報検索)	演習
第5回	文書作成と編集	演習
第6回	ネットワークの功罪 II	
第7回	表計算の取り扱い、および基本統計 I	演習
第8回	表計算の取り扱い、および基本統計 II	演習
第9回	表計算の取り扱い、および基本統計 III	演習
第10回	表計算の取り扱い、および基本統計 IV	演習
第11回	情報科学概論 II (情報セキュリティ)	
第12回	ホームページの作成・画像処理	演習
第13回	プレゼンテーションの企画・作成	演習
第14回	情報科学概論 III (最新のNetwork事情)	
第15回	コンピュータ言語(Small BASIC)	演習

授業方法	講義・演習
教科書	自作テキスト(無料配布)
評価方法	レポートおよび出席状況

分野	科目名	単位/時間数	時期	担当教員
基礎分野	文章表現	1単位15時間	1年前期	非常勤講師

授業のねらい

医療現場においては、看護師は、医療チームの一員として役割を果たすために、複数のメンバー間で、適切に情報を伝達・共有することが求められます。また、健康上、何らかの病を抱える様々な年代の患者の方々とは日本語を用いてコミュニケーションを図り、患者の方々が何を求めているのかを適切に把握し、なおかつ、医療側の方針を簡潔にわかりやすく伝達しなければなりません。この講義では、「読む」「書く」ことをする上での基本的な事項を理解し、日本語を正確に使用する方法を学び、文章表現力を身につけることを目的としています。

授業計画

第1回	オリエンテーション:看護学生が文章表現を学ぶ必要性とは？
第2回	看護学生にとって「読む」こと、「書く」こととは
第3回	看護学生が「読む」ということ、その重要性と獲得すべき視点
第4回	看護学生が「読む力」を伸ばすために
第5回	看護学生が「書く」ということ、その重要性と獲得すべき視点
第6回	看護学生が「書く力」を伸ばすために
第7回	看護学生が「読んで書く」ということ
第8回	本授業のまとめ

- 授業方法 (1). 本授業では、授業計画にある「読む」こと、「書く」ことの基本(日本語表現法)を学ぶ。
(2). 看護師は、多くの人々と情報共有をすることを求められていることを認識する。
(3). (1)(2)で学習したことをもとに看護における「書く」こと「読む」ことの力量を伸ばすための視点を学び看護学生が読む看護記録や実習記録の書き方を学ぶ(小レポート作成)。
(4). 最終レポートを作成し、グループディスカッションの場を設け、教員、学生同士で添削し合い、完成させ、報告する機会を設ける。

教科書 授業時に資料を配布する。

評価方法	出席・授業後のミニレポート	30%
	最終レポート	70%

分野	科目名	単位/時間数	時期	担当教員
基礎	英語 I	1単位30時間	1年前期	非常勤講師

授業のねらい

国際時代に対応する能力育成のために英会話の基礎を学ぶ

授業計画

第1回 Greeting, class information, icebreakers

第2回 Who are you?

第3回 Sports and hobbies

第4回 Friends

第5回 Food and drink

第6回 Lifestyle

第7回 Family

第8回 Clothing

第9回 Travel and holidays

第10回 A trip abroad

第11回 Mysteries

第12回 Tour of Japan

第13回 Education

第14回 Jobs

第15回 Final class, wrap-up

授業方法 英会話・スピーチ

教科書 Octopus Activities

評価方法 英会話評価

分野	科目名	単位/時間数	時期	担当教員
基礎	英語Ⅱ	2単位45時間	1年前期	非常勤講師

授業のねらい

- 1、他の国々への知見を深め、国際的視野を広げる
- 2、看護現場で必要となる基本的な語彙・表現を繰り返し学習し、特に正しい発音に重点を置いた授業を展開する。

授業計画

第1回	教授業方針・教科書の紹介・評価基準の説明、その他	Chapter 1 国籍、收容、婚姻について
第2回	Chapter 1	Registration form の作成
第3回	Chapter 2	Clinical department
第4回	Chapter 2	ナースの名称
第5回	Chapter 3	Chapter 1,2の試験、The human body,
第6回	Chapter 3	ナースが扱う代表的な医療機器
第7回	Chapter 4	Hospital Unit
第8回	Chapter 4	病棟案内図
第9回	Chapter 5	Chapter 3,4の試験、Severity and types of Pain
第10回	Chapter 5	病院で働く人々
第11回	Chapter 6	The human Body (2)
第12回	Chapter 6	健康度をチェックしよう
第13回	Chapter 7	Chapter5,6の試験 The human Body (3)
第14回	Chapter 7	排泄補助員
第15回	Chapter 8	The human Body (4)
第16回	Chapter 8	呼吸法
第17回	Chapter 9	Chapter 7,8の試験、Common illness and condition,
第18回	Chapter 9	移動補助員
第19回	Chapter10	励まし・安心感を与える表現1,
第20回	Chapter10	励まし、安心感を与える表現2
第21回	Chapter11	Chapter 9,10の試験
第22回	Chapter11・12,	母乳育児をしている母親への表現、Common Abbreviation
第23回	Chapter12,	確認と練習、Chapter 11,12の試験

授業方法

講義・英会話

教科書

Let's Listen Speak and Learn 臨床看護英語 第6版 医学書院

評価方法

2課ごとの試験を6回、その他授業態度・積極性などを考慮して100点満点に換算して評価を出す。

分野	科目名	単位/時間数	時期	担当教員
基礎	人間関係論 I	1単位20時間	1年前期	非常勤講師

授業のねらい

ひと、もの、ことと関わる体験学習をととして、自分や他者の身心に起きていることに注意を向け、自ら「気づく」「探求する」力を養い、共感する感性を培う。その土台として、身心一如である自分の感じ方やからだの動き方を、認識することの重要性を学ぶ。
 毎回、体験学習を行い、互いの体験を分かち合うことで、自他の違いを知り、人間理解を深める。

授業計画

- 第1回 【自己を知る】身心一如の観点から、自己肯定度質問紙、各人の全身写真の撮影を実施(初日と最終日)し、自己理解の補助とする。自分自身の考え方や身体的なありようにどのような癖や特徴があるのかを掴む。
- 第2回 【感覚の覚醒】基本的なからだの動きや呼吸、からだの動きを通して、行住坐臥を整え、からだどこころのつながりを実感し、自己理解を深める。
- 第3回 【マインドマップ】体験学習の振り返り方法の一つとして、マインドマップを作成し、図にすることで俯瞰的に自他の体験を捉える助けとする。以後、随時体験学習後の振り返りに取り入れる。
- 第4回 【自然と関わる】私たちは周囲(人、環境)とどのように関わっているのか。影響を与え、かつ影響を受けているのか、その相互性を実感し、探求する。
- 第5回 【ムーブメント】言葉だけでなく、身体表現・表出を通して、人は互いに交流している。たがいどのような表現・表出をしているか、探求する。
- 第6回 【卵は立つのか】卵の実験を通して、感情や考えとからだ・行動のつながり、自分と他者、環境との関わりを探求する。
- 第7回 【バランスのとれた休息】休息の質が、身心の調え方に影響を与え、呼吸や活動の質にどのような変化を起こすのか探求する。
- 第8回 【与える受け取る】言葉だけでなく、まるごとのからだによって、相互に影響を与えあい、関わり合っていることを探求する。
- 第9回 【手当】
他者のからだに耳を澄まし、他者に手をあててみる。他者に触れ、触れられる体験を通し、互いに感じ、共にいることを探求する。
- 第10回 【目隠し歩き】
環境の中で、まるごとの自分を相手に預ける、預けられるという体験を通して、信頼はどのように生まれるのか、体感する。

授業方法 講義・演習

教科書 レジュメを配布

評価方法 参加状況とレポートによる総合評価

分野	科目名	単位/時間数	時期	担当教員
基礎	人間関係論Ⅱ	1単位15時間	3年	非常勤講師

授業のねらい

3年次の体験学習では、臨地実習での看護体験との関連もふまえ、自分と他者、環境との相互的な影響により深く、広く、注意を向ける。体験学習を通して、自己受容と他者受容はどのようにかかわっているのか探求する。体験学習から想起される日常生活や病院実習など具体的な体験を振り返り、身心一如の人間である自他の理解を深める。

授業計画

第1回		【感覚の覚醒】呼吸の様子、体の動きを通して自分自身の習慣的な癖(体・感情・考え方)有りようを掴み、理解する。また、体の動きの全体的なバランスを調えることで身心への影響を実感する。
第2回		【自然との対話】自然・環境との関わりを通して、どのような相互性があるのかを実感する。
第3回		【マイシリエットの創作と鑑賞】自分のシルエットを素材にして、自分を表現してみる。他者のシルエット作品を鑑賞し、そこに表れた思いや創作過程を洞察する。
第4回		【群像】集団の中の一人として、他者の身体表現を読み取り、かつ自分を身体表現を通して、他者に伝える。表現に必要なものは何か探求。また意図せずに伝わる表出にも注意を向ける。
第5回		【与える受け取る】触れること、触れ方の質によって、互いが相互に影響しあうことを探求する。コロナ禍の中、人に近づくことに葛藤の起きやすいなかで、どのようにかわるのか探求する。
第6回		【バランスのとれた休息】休息の質が、身心の調え方や生活のリズムにどのような影響を与えるのか、探求する。自分自身へのケアの必要性を考える。
第7回		【ムーブメント ミラーリング】互いに真似ることを通して、理解、共感、尊重する、その相互性を探求する
第8回	1時間	【いのちの旅】人として全人的に人に関わるとはどういうことなのか、その感性を探求する。

授業方法 講義・演習

教科書 レジュメを配布

評価方法 参加状況とレポートによる総合評価

分野	科目名	単位/時間数	時期	担当教員
基礎	社会学	1単位30時間	2年前期	非常勤講師

授業のねらい

社会学の概念、理論などの基礎知識を勉強し、社会についての見方を学ぶ。その上で、現代社会が抱える諸課題・諸問題への理解を深める。

授業計画

- 第1回 「社会学」の概観と社会調査
- 第2回 人間の行為と相互行為を理解する
- 第3回 家族の変容とウェルビーイング:「圧縮された近代」における生き方
- 第4回 地域社会とソーシャル・キャピタル: 結束型と橋渡し型
- 第5回 少子高齢社会: 子育て支援・高齢者介護と地域の活性化
- 第6回 社会福祉: 福祉国家と社会保障
- 第7回 宗教: 宗教の社会貢献
- 第8回 教育: 学歴社会と文化的再生産
- 第9回 労働: 非正規雇用と若者の就職問題
- 第10回 階層と階級: 格差と社会的排除
- 第11回 ジェンダーとセクシャリティ: フェミニズムとLGBTQ+
- 第12回 政治と社会運動: 受益圏・受苦圏のジレンマ
- 第13回 グローバリゼーション: トランスナショナリズムとエスニシティ
- 第14回 メディアとコミュニケーション: 情報社会の光と影
- 第15回 全体のまとめ

授業方法 講義・グループワーク

教科書 櫻井義秀・飯田俊郎・西浦功編(2014)、『アンビシャス社会学』、北海道大学出版会

評価方法 毎回のミニレポート60%と期末レポート40%により評価する。

分野	科目名	単位/時間数	時期	担当教員
基礎	現代社会と家族	1単位15時間	2年後期	非常勤講師

授業のねらい

現代社会を取り巻く社会的状況が変化してきています。複雑多様化する家族の現代的課題に向き合いながら家族を取り巻く環境を理解し、専門職としての視点や求められる家族支援のあり方について考えていきたいと思ひます。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション 家族とは
- 第2回 家族とは 家族の変貌
- 第3回 家族の機能と役割
- 第4回 家族を取り巻く社会の動向
- 第5回 現代家族が抱える悩み
- 第6回 専門職としての家族支援
- 第7回 多様な支援の展開と関係機関との連携
- 第8回 1時間 家族支援のこれから

授業方法 講義・グループワーク

教科書 使用しない 適宜、参考資料(プリント)配布

評価方法 授業への参加意欲や課題に対する取り組み、試験により総合的に評価します

分野	科目名	単位/時間数	時期	担当教員
基礎	運動と健康	1単位15時間	1年前期	非常勤講師

授業のねらい

身体活動が人のからだにどのような変化を及ぼすのかを学習し、人の健康との関連について理解する。また、身体を動かす楽しさを知り、コミュニケーションや人間性の向上を図る。そして、自分自身についての健康と運動を考え、日常生活の中での運動の大切さを理解する。

授業計画

第1回	健康についての理解と自分自身の身体について知る。 簡易的な体力測定の実施
第2回	心拍数と運動強度の関係を知る
第3回	エアロビクス①フィットネスプログラム(ヨガ・有酸素運動) 筋カトレニング
第4回	ニュースポーツ紹介①(ドッチビー・キャッチ・スティック等) ニュースポーツ紹介②(ペタンク、テニス系等)
第5回	レクリエーションを取り入れた対象に合わせた運動遊び
第6回	身近な道具を使用した運動
第7回	エアロビクス②フィットネスプログラム(ヨガ・有酸素運動)
第8回	1時間 まとめ

授業方法 講義、実技

教科書 指定しない

評価方法 レポート作成、授業態度など総合的に評価

分野	科目名	単位/時間数	時期	担当教員
基礎	体育	1単位30時間	2年前期	非常勤講師

授業のねらい

スポーツを通して身体を動かす楽しさを知る。また、高齢化が進む現代社会における様々な健康阻害要因について学び、青年期から健康に関心を持つ重要性を理解する。さらに、さまざまなスポーツを体験し、自ら実践できる力を身につける。

授業計画

第1回	自己紹介ゲーム
第2回	自分自身の体について、簡易体力テストの実践
第3回	筋力トレーニング・サーキットトレーニング
第4回	有酸素性運動のグループワーク・実践 ニュースポーツ体験(ドッチビー)
第5回	ニュースポーツ体験(ミニテニス)
第6回	ニュースポーツ体験(クップ) 運動計画①(対象者の目的に合わせた運動計画)
第7回	体育大会の実践①(体育館にて実施)バスケットボール
第8回	体育大会の実践②(体育館にて実施)バレーボール
第9回	野外活動の計画①(ウォークラリーの問題作成)
第10回	体育大会の実践③(体育館にて実施)バドミントン
第11回	体育大会の実践④(体育館にて実施)バレーボール
第12回	野外活動の計画②(ウォークラリーの問題作成)
第13回	野外活動の実践・ウォーキング 運動計画②(対象者の目的に合わせた運動計画)
第14回	運動実践発表①
第15回	運動実践発表② ボールを使用した運動等 まとめ

授業方法

実技

教科書

指定しない

評価方法

レポート作成、プログラム作成、出席状況、授業態度等を総合的に評価